

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



令和八年四月度 入賞句一覧

投句数 七百二句

特選

田中 青志 選

叱られに來たぞや父母よ御彼岸よ

大垣市 三輪 実

『毎年よ彼岸の入りには寒いのは』お母さんの呟きをそのまま書いたといわれる正岡子規の俳句に対し、この句は己の呟きをそのまま一句にしたものの変わっていないことに対するかやと叱られることが多かった生前、今もその暮らし方が変わっていないことに対する自己反省の披瀝とも見えて、この人の人間性がうかがい知れるようで、楽しく親しみのある一句といえる。

仙人が落ちてきさうな山霞

大垣市 柏瀬 澄子

猫は鼠を捕ることを忘れ、人間は借金のあることを忘れる。猿は木から落ち、仙人は山から滑り落ちるなどと、漱石の『草枕』の一文をもじつたりしたら・・・。漱石さんや人間界を超越した仙人様に叱られそうだけれど、春の霞の長閑な世界を、機知に富んだ発想で書かれたことを評価させていただく。

奪ひたる空を返して桜散る

大垣市 田中 雅子

空が見えないほど絢爛豪華に咲いた桜の花。散ることによつて隠してしまっていた空をお返ししますと桜が詫びるといふ。どういたしまして、美しい花を見せて頂いてこちらこそありがとうございます。こんなやり取り、楽しくていいではありませんか。お互いを称え合ふ春は過ぎて行く。花惜しむ、春惜しむの候となりました。

秀逸

巢立ちゆく笑顔見送る桜かな

岐阜市 今井 千里

齡とて綺麗でゐたい春日傘

大垣市 宮脇 和子

組かえに期待膨らむ新学期

大垣市 久保田 悟義

船頭の竿に裂かれし花筏

大垣市 高田 雅章

花は葉に静けさ戻る城下町

大垣市 大角 信華

ただ会ひに來たと言ふ父春霞

揖斐郡揖斐川町 栗野 みねお

まつとうな生き方示す蟻の道

広島県福山市 栗本 リカ

三日坊主とは吾ことよ葱坊主

三重県四日市市 後藤 允孝

山笑ふひつくりかえす砂時計

東京都足立区 山崎 董久

上向いて水飲む雀春の雨

神奈川県相模原市中村 光枝

入選

朝寝して娘に戻る生家かな

大垣市

平野 きぬよ

葉を食うかどうかの談義桜餅

福井県敦賀市

山田 美千代

大仏の袖の滴や春の雨

岐阜市

田中 淳子

初燕路面すれすれ雨予報

大垣市

田口 さよ子

昼休み弁当ひらく桜の下

大垣市

田川 布美

しゃぼん玉幼の声も七色に

大垣市

北浦 典子

櫓がむせぶ水門川の花吹雪

大垣市

竹内 秀人

戸を少し開けし家あり燕来る

揖斐郡大野町

豊田 美見

彼岸会のお茶を出さるる手に齡

大垣市

三輪 葉加

手に届く朧月あり川堤

大垣市

多賀 英華

寄り添ひてタンポポの絮旅仕度

不破郡垂井町

野々部 節子

亀鳴くや自己紹介に嘘の趣味

大垣市

川瀬 恭子

春の朝小さき弁当一つ増え

東京都江戸川区

羽住 博之

春光の稚児に眩し宮参り

愛知県名古屋市

岩田 遊泉

陽炎や三人寄りて読めぬ句碑

大垣市

吉田 てるみ

選者吟

働いて働いて働いてご褒美の日向ぼこ

青志

一般の部

